



ミシン



生活電話帳



青汁



メジャー



**KEIKO
IIJIMA**

AGE

65



毎朝6時25分からテレビ体操をして、お昼にはいつも青汁を飲みます。青汁はもう10年つづけていて、そのおかげか、とても健康です。たまには風邪でもひいて休みたいなって思うぐらい(笑)。年2回のリフレッシュ休暇は、毎年海外に行っていましたが、今年はコロナ禍のため新調したミシンでキルトマスクをたくさん縫って、カナダで暮らす娘に送ってあげました。

ケアマネの仕事で利用者さんのお宅を訪問するときはメジャーを携帯します。手すりやベッドなど福祉用具が必要になった場合、すぐその場で測って業者さんに伝えておくと、手間が省けてスムーズに進むので。主任ケアマネとして力を入れているのは、香取市の主任ケアマネたちと一緒に取り組む活動です。高齢の人が買い物や生活で「ちょっと困った時」に役立つ「生活電話帳」をつくりました。地域のお店を1軒1軒まわって聞き取りを重ねて……完成まで1年半もかかっちゃいましたが(笑)。

介護の仕事に就いたのは、人生の折り返し地点から。20代の頃は東亜国内航空で客室乗務員をしていたんですが、身体の不自由な人や介護を担う家族のための「運航サービス」を日本でいち早く採用した航空会社で、いま思うと何か縁を感じます。「杜の家くりもと」で働いて約14年。前理事長の在田正則さんは、最も影響を受けた利用者さんでもあります。もともとご両親のケアを担当していたからかもしれません、ご本人から「末期がんが見つかった。ケアにかかわってほしい」と直接お電話を受けて、それから約4か月間、がんと戦い、少しづつ衰弱され、お亡くなりになるまで、毎週ご自宅でお話ををするなかで、人間としての強さ、そして時には弱さを感じさせられました。



客室乗務員時代

**飯島啓子さんの
6つのこと**

今号の表紙

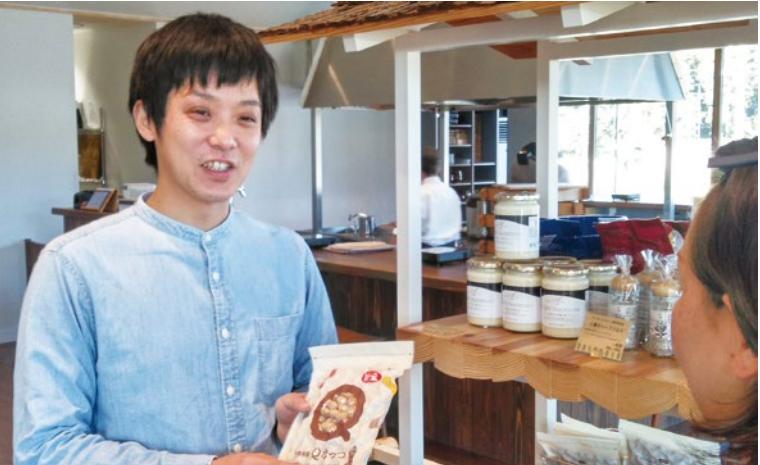
杜の家くりもと
地域福祉サービス部 居宅介護支援 リーダー



在田正則さん

|||||| WORKER |||||

落花生も売り、離乳食も作る 恋する豚研究所 営業 鹿野圭祐さん



新品種の落花生「Qなっつ」も売り込む。

「恋する豚研究所」の鹿野圭祐さんは、香取市小見川地区出身の33歳。専門学校で栄養士の資格を取得し、老人ホームの栄養士や、コンビニエンスストアのお弁当をつくる会社を経験して、2016年に、豚肉の営業職として福祉楽団に入職した。「食」によって人の身体がどう変化していくのかに興味があり、食に携わる仕事をしたいと考えてきた。さらに「思い」を人に伝える技術を身につけたいと考え、営業職を志すことに。たまたま見かけた求人で、「食」と「営業」の恋する豚の仕事を見つけた。地元の会社だし、地域の役に立てればいいかななど。

営業をはじめて半年経ったころ、商談会の名刺交換から大口の取引が始まった会社が突然倒産し、売掛金200万円が回収できなくなってしまった。いわゆる「計画倒産詐欺」というもので「とにかく目の前が真っ暗になりました」と当時を振り返る。社会の厳しさを目の当たりにした。こうした経験から与信の重要さを知り、相手を見極める目を培った。

プライベートでは、2019年に男の子が誕生し、21日間の「リフレッシュ休暇」を取得して家族に寄り添った。今でも家事を積極的に引き受け、子どもの離乳食も作っている。

いまは落花生など、地元の食材も売り込んでいる。「農家の人は営業に慣れていないので、自分が少しでも力になりたい」と話す。また、消費者や店舗の声を工場や農場に伝えることを大切にしているという。「都内の高級スーパーでうちのハムがバンバン売れているって、すごいですよね。でも、取引先を増やさないと安定的な経営にはつながらない」だから、「お近くのスーパーで『恋する豚のお肉ありますか?』と店員さんに聞いてもらいたい」と、地道な戦略も忘れない。

「もともと根暗ですから」と話す鹿野さん。内省的で生真面目な性格を感じさせた。

text : YAMANE Masanori

||||| FAMILY |||||

たくさんの「ありがとう」に詰まった想い こはら 小原きのさんご家族インタビュー



ご自宅の居間で息子さんらと話す。

「杜の家やしお」の特養に入居して2年になる小原きのさん（96歳）。長年八潮市に住んでおり、息子の武さんの代で17代目の江戸時代から続く家系という。そのご家族に話を伺った。

小原さんは「杜の家やしお」の近くに広大な田んぼを持ち、近所の人にも手伝ってもらいながら農業を営んでいた。戦時中は旦那さんが不在で、家事や仕事は小原さんが切り盛りしていた。作った作物は戦地へ送り、「自分たちが食べるのもやっとだった」と話す。戦後になると、自分よりも子どもに食べさせることができ精一杯だったと当時を振り返る。「子育てや親の介護、農業で大変だったと思うけど、母は頑固で我慢強い」と娘の幸子さんは話す。「杜の家やしお」への入居前は地域の婦人会やゲートボールなどが楽しみで、たくさんの友人に囲まれて暮らしていた。

小原さんの口癖は「すみませんね。どうもありがとうございます」だ。事あるごとに、感謝の言葉を職員にかけて労ってくれる。「戦争中の経験から物や人など、何に対しても感謝の気持ちを忘れないのかな。その生き方は昔から変わらないですよ。感謝の気持ちちは母の背中を見て学びましたね」とご家族は口を揃える。お話の最中も、ご家族に「ちゃんと育ってくれてありがとうございます」と伝えていたのが印象に残った。

戦争中の経験だけでなく、家族や友人との関わりが小原さんの「ありがとう」には詰まっていると感じた。私も、貴重なお時間をいただいた小原さんとご家族の皆様に、心からの「ありがとうございます」を伝えたい。



text : ABE Keisuke



「コピー機」から見える福祉楽団

富士ゼロックス千葉 課長 飯田健市郎さんインタビュー

けんいちろう

富士ゼロックス千葉の飯田健市郎さん（43歳）は、2002年に「杜の家くりもと」建設中の仮設事務所の時代から、福祉楽団のコピー機やパソコンなどのシステムを支えてくれている担当者だ。千葉県旭市出身で成田市に住み、電車で千葉市まで通勤する。休日はバイクでツーリングに行くことも。「コピー機だけではなく、最新のICTやテクノロジーをお客様に提案することが仕事」と話す。大きな病院などを含めた大企業を20件ほど担当し、毎日、足を運ぶ。福祉楽団では積極的にICT機器を導入しているが、「福祉楽団は他のお客様と比べてもかなり先進的だ」と評価してくれた。

飯田さんは、「杜の家くりもと」の特養に入居されている祖母、飯田秀さんのお孫さんでもある。5年前、家族介護の限界を感じ「杜の家くりもと」に相談した。「『何も心配しなくて大丈夫。明日すぐに来てもらってもいいですよ』という相談員の言葉が何よりも心強かった」と話してくれた。「『杜の家くりもと』は、施設独特のにおいもなく、職員のみなさんが元気に挨拶をしてくれるし、そういう雰囲気にはっとした」と。「他の入居者さんとひなたぼっこしながら談笑する姿は、昔からよく見ていた祖母の笑顔だった。『杜の家くりもと』で本当によかったと感じた」と言いつつも、少し寂しそうである。それ

は、数年前から秀さんは、健市郎さんに会っても「どちらさまですか？」と聞くようになった。しかし、「今となってはそれもかわいい」と、秀さんとのやりとりを楽しんでいるようだ。

福祉楽団の理事長の飯田とは、小・中学校時代の同級生。一緒にツーリングに行くこともある仲間のこと。取引先でもあり利用者でもある関係で、言いにくいこともあるかもしれない。そういうことも配慮しながら、ケアを提供していくことの大切さを思った。



福祉楽団のサポートセンターにもよく顔を出してくれる。

text : IWATA Naoki

ACTION



社会福祉法人コレクティブが発足 先進の法人と人事交流が可能に

福祉楽団では、北海道の「ゆうゆう」、神奈川県の「愛川舜寿会」と「3社福アライアンス」を締結して経営の連携をすすめてきました。本年6月に社会福祉法が改正され、「社会福祉連携推進法人」制度が創設されたほか、さらなる経営の質の向上や、中核となる福祉人材の育成、バックオフィスの効率化が求められています。こうしたことから、あらたに「ライフの学校」（仙台市）、「子供の家」（東京都）、「生活クラブ」（千葉県）、「南高愛隣会」（長崎県）とも協定を締結し、11月1日から7つの法人からなる経営連携の共同体として「社会福祉法人コレクティブ」を発足させました。人材育成や、

物品調達、災害時の応援体制などを協働して行なってきます。



text : IIDA Daisuke

REPORT



「コロナ禍」の新しい研修様式

2020年4月から17人の新入職員がはたらいている。例年であれば、4～5月に集中して研修を行っていたが、今年



はCOVID-19の影響で、9月から週1回のペースで実施している。研修は、リアルに会場に集まる形式と、オンライン形式のハイブリッド型。換気と講義の間ごとにアルコール消毒をしているが、そもそも介護の演習などでは身体接触は不可欠だし、感染対策の難しさを感じている。経験を重ねていくことと、講義で理論を学ぶことを並行して行なっている形になって、こういう研修のやり方もアリだなと感じながら進めています。研修は2021年の2月まで続き、すべて受講すると、介護職員初任者研修が取得できる。

text : HARADA Takayuki

COVER STORY

杜の家くりもと 地域福祉サービス部 居宅介護支援 リーダー

飯島啓子さん



たくさんの絵葉書は、娘さんが大学時代に30か国以上の旅先で送ってくれた宝物。現在カナダのパイロットスクールで教官をしている娘さんの操縦でバンクーバーをフライトしたことは、忘れられない思い出だとか。娘さんの存在は、「今の仕事が楽しいし、まだまだやりたい」という飯島さんの原動力になっていると感じた。

text : HARADA Takayuki

VOICE

ご利用者やご家族などからハガキやメールなどで寄せられた「声」に対して、職員がお答えします。

ご意見

〔「杜の家やしお」ショートステイ〕

ショートステイの利用後、自宅に戻るとリハビリパンツがびっしょり濡れていって、2～3日交換していないような状態でした。

お答えします



阿部 恵祐

杜の家やしお
生活支援課 課長

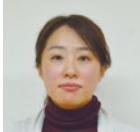
ご不快な思いをさせてしまい、大変申し訳ありません。起床時には汚れが無いことを確認しておりましたが、その後、トイレのお声掛けができませんでした。今後は対応を改善してまいります。

ご意見

〔「福祉楽団 地域ケアよしかわ」居宅介護支援センター〕

いつもお世話になっており、ありがとうございます。いろいろと相談に乗ってもらい、心強いです。これからもよろしくお願ひします。

お答えします



中村 麻里

福祉楽団 地域ケアよしかわ
事業部長

ありがとうございます。筆をとり、お気持ちを伝えてくださったことが本当に嬉しく、励みになります。ご心配なことは、遠慮せずにご相談ください。少しでもお力になれたらと思っております。

※掲載しているご意見の内容は個人情報の保護の観点から編集をしています。

TOPICS

01 介護教育用ビデオの撮影を行っています

「杜の家やしお」では、厚生労働省「介護のしごと魅力発信事業」の教育ビデオ制作に協力することになり、介護現場をテレビカメラで撮影しています。撮影チームには感染症対策研修を行い、人数も最小限で行っています。介護人材の確保と育成のための取り組みですので皆様のご理解とご協力をお願いいたします。2021年1月末までの予定です。

02 施設修繕・復旧工事を行います

2019年台風災害等による建物の損壊、設備故障等の修繕・復旧工事を以下のとおり行います。ご入居者の一時的な移動や騒音、工事業者の出入りがあります。ご迷惑をおかけいたします。

●杜の家くりもと

内容 電気設備（非常用発電等）・照明・内装・床張り替え
時期 2020年10月～2021年3月

●杜の家なりた

内容 内装
時期 2020年12月～2021年1月

●杜の家やしお

内容 電気設備（非常用発電等）
時期 2021年2月～2021年3月

03 「わたしの身体はままならない」 河出書房新社より発売

福祉楽団で編集協力した書籍「わたしの身体はままならない」が発売されました。多様性をリアルに知ることのできる内容の濃い一冊に仕上りましたのでぜひ、ご一読ください。



04 年末年始の面会等は分散して計画的に

年末年始の施設の面会は、事前のご予約をお願いいたします。新型コロナウイルスの感染状況により制限することもあります。発熱や体調不良があるとき、回復して一定期間を経ていない人は施設への来訪はできません。

05 お歳暮やお年賀に「恋する豚」を

年末年始のギフトに「恋する豚研究所」の詰め合わせをぜひ、ご利用ください。Yahoo!ショッピングからご購入いただけます。

